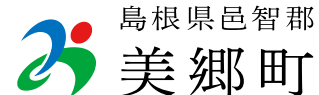


みさと。
とと。

美郷町 最近のトピックス

2023年（令和5年）4月



第30回しまね景観賞奨励賞
美郷町サテライトオフィス「みさと。ネスト」



第30回しまね景観賞奨励賞
「野間の雲海」等の町内外18基の案内看板



野間の雲海



1 令和5年度施政方針 人口減少対策を最優先に3つの重点分野施策を推進

☆令和5年3月定例議会（2月27日開会）で、嘉戸隆町長が令和5年度の町政の基本方針「施政方針」を発表

○美郷町では、長年にわたり人口減少が進み、足元でもその傾向は続く（令和2年国勢調査 5年前比：545人減少、減少率11.1%。令和4年島根の人口移動と推計人口：前年から人口減少率3.4% 両減少率はともに県内最大）。町の衰退に拍車がかかり、町の将来の存続が危ぶまれるほど危機的な状況

○人口減少に伴い、町民生活に密接に関連した様々な課題が顕在化し、年々深刻化。目の前の課題に対処し、少しでも町民の生活の不便さを和らげることは行政の使命であり、全力で取り組み。しかし、より重要なのは、こうした課題の抜本的な解決を図ることであり、その背景にある人口減少に歯止めをかけ、是正していくこと。2期目にあたり最優先事項として人口減少問題に真正面から取り組む

○困難な状況にあっても人口減少対策として蒔いた種の芽がいくつも出始め、将来への明るい兆しが見え始めている。2つのビジョン『活気あふれる明るい町』『町外と活発な交流のある町』を目指し、『細心大胆』に、3つの重点分野「安全・安心、健康で不便の少ない町づくり」「人口減少対策」「町の活気づくり」の関連施策を特に推進

プレゼン動画



プレゼン資料



移住サイト



サステナブルハウス



2 人口減少対策 3つの移住・定住重要施策を推進

☆3月議会全員協議会で、嘉戸隆町長自身による「美郷町の人口減少対策について」プレゼンを実施（町の人口の推移・推計・比較、分析、令和5年度施策の全体像等）。プレゼンの動画・資料は町HPで公開

☆分析を踏まえ示した2つのテーマ「若者の流入が最重要課題（移住定住対策に留まらず滞在人口・活動人口を生み出す取り組みが必要）」「子どもを安心して生み育てることのできる施策と環境づくりが必要」に向け取り組着手

☆3つの移住・定住重要施策

①【社会に出るまで続く手厚い『子育て支援』】 保育料の全員無償をはじめとした義務教育までの支援に加え、大学等進学者に返還不要の「美郷町子ども未来応援金」を創設し、生まれてから社会に出るまでを手厚く支援。応援金財源は「ふるさと納税」。将来は子ども達の「ふるさと納税」による「循環型支援の仕組み」構築を目指す

② 様々なライフステージの節目で応援する「定住ポイント」制度】 転入・就職・結婚・出産等の様々なライフステージの節目で移住・定住者、町民の暮らしを細やかに支援する美郷町の特徴的な施策

③ ファミリー向け移住住宅『みさとと。サステナブルハウス～自然の恵みと暮らす家～】 太陽光パネルや電気自動車用電源、薪ストーブ設置可能仕様の標準装備等、公営住宅として類を見ないこだわりの住宅。美郷町だからこそ可能なサステナブルな暮らしを提供。令和5年4月から第1次募集開始し、今後、年5～6棟の建設を予定

☆庁内横断「移住・滞在WEB情報特命チーム」を新設。移住・滞在WEB情報の情報発信力の強化や『「転職なき移住」モニター制度』（都市圏企業を対象に、美郷町での移住・リモートワークの試験実施）に取り組む。更に、お試し移住の「大人の山留学」も開始



3 DXの取組推進 「美郷町デジアナ構想」がデジタル庁交付金に採択

【美郷町デジアナ構想】

●マイナンバーカード取得推進に向けた独自の取組みで（中・高生によるマイナンバーサポート隊、マイナポイントの地域通貨「みさとと。Pay」カードへの付与等）、昨年から交付率を大幅に伸ばし、全国上位に（令和5年3月末時点で76.1%、全国1,741自治体中175位）

☆令和5年3月 デジタル庁「デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプマイナンバーカード利用横展開事例創出型）」に、「美郷町デジアナ構想」が事業採択（補助率10/10）。この交付金区分の採択は県内で美郷町のみ

☆構想では、マイナンバーカードと地域通貨「みさとと。Pay」カードを連携させ、健康・子育て、交通、防災の分野で便利なサービスを受けられる4つの取組みを実施。高齢化率約48%の町にあって、誰もが、デジタルを意識することなくデジタルとアナログを融合したサービスを受けられることを目指す

☆取組のうち、子ども見守りサービスは、3月のデジタル田園都市国家構想実現会議（議長：岸田文雄内閣総理大臣）のデジタル庁資料に掲載（マイナンバーカード利用拡大デジタル事業）。河野太郎デジタル大臣のtwitterで紹介

【様々な取組み進展中】

・町民向けIP告知放送で、「AIによる最先端音声合成を活用した放送」を4月より開始

・美郷町公式LINEのお友だち登録者数は、2月に町人口（4,355人）超えを達成し、5月7日現在で5,500人超え。登録者数が人口を超える自治体は全国12自治体のみで、全国トップクラス

・災害対応力の強化に向けた活用（デジタルマップ、災害情報のリアルタイム・一元的収集の仕組み作り、マイナンバーカード活用による避難所運営、状況把握）、オンライン診療の普及促進、窓口や補助金等の行政手続きのオンライン化等



みさととバリ

4 バリの町づくり バリ島マス村友好姉妹都市協定 30 周年を記念

●日本の自治体で唯一、インドネシア・バリ島の自治体「マス村」と友好姉妹都市協定を締結。民間交流を下地に続いてきた交流は経済交流・文化交流へ広がり大きく発展中で、様々な方面から大きな注目。来町した技能実習生は地域と交流を深め、日本最大規模（約 40 人）のガムラン楽団「Misato Sari（ミサト・サリ）」は、地域文化として浸透

☆令和 5 年度は、バリ島マス村との友好姉妹都市協定締結 30 周年。「バリ島マス村友好協定 30 周年事業特命チーム」を設置、1 年を通じて町民参加の様々な取組みを計画し、唯一無二の交流を滞在人口・活動人口の拡大につなげる

【30 周年記念事業年間計画】

4 月：特設サイト公開（交流の歴史をまとめた長編記事も掲載）、30 周年協賛イベント補助事業（年間）、マス村友好訪問団募集（中高生・町民）、5 月：フォトコンテスト、6～8 月：ガムラン補修ワークショップ（3 回）、8 月：マス村友好協定式典参加（行政・議会・町民による友好訪問団）、9 月：ワヤン・クリット上演（バリの伝統影絵芝居）、10 月：バリとみさとと。まつり（記念式典・シンポジウム、全国初の神楽・ガムラン共演等）、2 月：記念品町民配布、3 月：バリアートスポット制作、割れ門モニュメント設置

5 カヌーのまちづくり 2 つの全国大会開催に向け施設整備、機運醸成

●2025 年インターハイ（全国高校総体）、2030 年島根かみあり国民スポーツ大会のカヌー競技開催地に美郷町が決定

☆両大会本部施設となり、邑智中学校、島根中央高校のカヌー部部室を兼ねるカヌー艇庫は、バリの建築様式や伝統の舟「ジュクン」を取り入れたデザインで、来年夏の完成予定。完成後は、インターハイプレ大会の開催も予定

☆上記 2 大会会場となる地域で練習を行う島根中央高校カヌー部の生徒は、「2023 カヌースプリントジュニア海外派遣選手選考会」で日本代表選手として内定し、3 つの国際大会に出場予定

4 月：2023 アジアパシフィックスプリントカップ（ニュージーランド）、7 月：2023 世界カヌースプリントジュニア選手権大会（イタリア）、9 月：2023 オリンピックホープス（ポーランド）

6 美郷バレー構想 地域と連携深め、新たな人の流れづくり



●町の勝ち残りをかけた「有害鳥獣対策版シリコンバレー」を目指す「美郷バレー構想」。自発的に様々な産官学民が美郷町に集い、11 団体が参画【産（5）官（3）学（2）民（1）】

☆参画団体の町内での活動、交流が活発化。マスコミに多く取り上げられ、全国から一層注目を集め、視察も大幅増。鳥獣害対策から発展した美郷バレー構想は、地域と連携し、町内への新たな人の流れをつくりだしてきている

【テレビ東京「池上彰の近未来テレビ」（1 月 3 日放送）で紹介】

ジャーナリスト・池上彰氏の報道特番で、美郷町の取組みを先進的な獣害対策として紹介

【古河電工グループサイトで紹介】

参画企業「古河電気工業株式会社」（東京都）とグループ会社「古河産業株式会社」（東京都）と連携し、林業の省力化・効率化に向けドローン運搬実証実験を実施中。古河電工公式サイト『Furukawa Electric Platform』コーナーの特集記事・動画で紹介

【麻布大学との交流拡大・参画企業等の活動、交流活発化】

- ・2 月～3 月には、麻布大学の教職員、学生約 30 人が研究・フィールドワークで滞在。また、同大学「島津徳人」准教授による町民向けセミナー開催され、NHK「みみより！くらし解説」で最先端の研究として全国放送
- ・令和 5 年 4 月以降、同大の教職員・学生が、様々な実習、調査、研究での来町・滞在が大幅に増加予定
- ・参画団体の連携による取組み進展 進出企業「タイガー株式会社」との町内交流、獣害対策等の課題解決の取組み「美郷バレー・きやらバン」、神奈川県大磯町と連携した都市圏向けの特産品等の情報発信、販売拠点づくり等

ふるさと納税



しまね景観賞



雲海情報



7 滞在人口・活動人口拡大 美郷町ならではの魅力を活かした取組

☆ふるさと納税が過去最高に 令和 4 年度は個人：2,578 件、44,956,000 円（対前年度比で件数 127%、金額 121%）、企業：2 件、6,000,000 円、合計 50,956,000 円と過去最高の 5 千万円台に（令和 5 年 3 月末時点）。また、「美郷子ども未来応援金」に充当可能な寄付額は合計 33 百万円となり、令和 3 年度末の約 1.5 倍と大幅増に

☆新観光スポット「雲海展望台」 町内 2 箇所の雲海展望台は、多くの人々が訪れる新観光スポットに。雲海発生期の春秋には発生率を予測する町 HP で「雲海予報」を実施。令和 5 年度には周辺整備や発生日の模様を町 HP に掲載

☆第 30 回しまね景観賞の受賞 「美郷町サテライトオフィス『みさとと。ネスト』と「美郷町魅力再発見プロジェクト『みさとと。デザイン』による『野間の雲海等の町内外 18 基の案内看板』の 2 つで、しまね景観賞を受賞

サステナブルハウス イメージ図



カヌー艇庫 イメージ図



美郷町

2023. 4



〒699-4692 島根県邑智郡美郷町粕淵 168 番地
電話 0855-75-1211 FAX0855-75-1218 (代表)
<https://www.town.shimane-misato.lg.jp/>